

近藤圭造編輯

内明八史畧

明治九年三月刻成

明八史畧緒言

特32
560

我が邦ノ漸ク文明ニ進歩スルヤ又從テ多事ナ
 ラルヲ得ズ僅カニ一歲中ト雖モ亦記ス可
 キモノ少ナカラザルナリ明治八年間ニ就テ
 之ヲ數フレバ曰立憲ノ
 詔書曰ク老審二院ノ建設曰ク地方官會議曰
 ク府縣裁判所曰ク唐太ノ交換曰ク朝鮮事件
 曰ク大臣ノ辭職曰ク新聞條例曰ク讒謗律其
 他小件細事ニ至リテハ枚擧ニ暇アラズシテ
 皆後世史ヲ讀ム者ノ最モ精細ニ注日ス可キ
 所ノモノタリ此ニ於テ余之ヲ一小冊子ニ編

明八史畧

卷

緒言

一〇



明八史畧緒言

明治九年圖書寮交付

漸ク文明ニ進歩スルヤ又從テ多事ヲ
ルヲ得ズ僅カニ一歲中ト雖モ亦記ス可
ノ少ナカラザルナリ明治八年間ニ就テ
數フレバ曰立憲ノ

認書曰ク老審二院ノ建設曰ク地方官會議曰
ク府縣裁判所曰ク唐太ノ交換曰ク朝鮮事件
曰ク大臣ノ辭職曰ク新聞條例曰ク讒謗律其
他小件細事ニ至リテハ枚舉ニ暇アラズシテ
皆後世史ヲ讀ム者ノ最モ精細ニ注目ス可キ
所ノモノタリ此ニ於テ余之ヲ一小冊子ニ編

明八史畧

緒言

緒言

一〇

編

成シ異日史傳ヲ記スル者ノ一助タラシメン
トシ頃口僅カニ其稿ヲ脱セリ偶マ書肆某來
ツテ之ヲ世ニ公ケセント乞フ余許サス某竊
カニ携ヘ去リ遂ニ上梓ス余已ムヲ得ナシテ
明八史畧ト題シ以テ大方ノ一噓ニ附ス
明治九年三月

東書館

明倫彙編

略卷上

近藤圭造 編

一月四日、太政官御政治始メ、三職以下諸
省、伊東、京府等ノ長官參列、天皇出御、其儀恒例ノ如
シ。○此日、少内史塚本明毅、日本地誌提要纂修ノ功
成ルヲ上奏シ、乃チ書七十七卷ヲ獻ズ。○大外史中
村弘毅等、齋ニ太政典類ヲ編纂シ、明治四年ヨリ、六
年ニ至ルモノ、二百九十九卷、繕寫成ルヲ以テ進呈
ス。○此日工部卿伊藤博文奏ス、方今政化ヲ贊ケ、人
智ヲ進ム、電信線ノ功多シ、陸線、東西長崎ヨリ青森

ニ至リ、北函館ヨリ小樽ニ至テ、遍ク架渉セリ、氣脉相通シ、荒遠ノ民、隆盛ノ澤ニ浴スルヲ、輦下ノ如シ、
 ○内務卿大久保利通奏ス、客冬、外征ノ事、既ニ畢リ、戒嚴漸ク弛ミ、衆庶業ニ安ンズ、如今大ニ内治ヲ整ヘ、人民和平ノ氣象ヲ保全シ、國家治安ノ基礎ヲ堅固ニスベキ要務ヲ責任トシ、夙夜奮勵、竭カシ、以テ陛下無窮ノ慶福ヲ祈ラントス、其他警保戸籍驛遞土木地理諸寮長官モ、亦同シク其責任掌管ノ重大事件ヲ擴張シ、永ク國家ノ政治ヲ裨益シ、兆民齊シク聖化ヲ蒙リ、安寧ニ至ラシメンコトヲ奏ス、○外務卿寺島宗則奏ス、各國交際、如今親睦ニ至リ、更ニ信

義ヲ海外ニ修ムルハ、施政上ノ要務ニシテ、皇國隆盛ノ休祥タル、疑ヒナシ、○陸軍卿山縣有朋奏ス、全國沿海數千里、砲臺利器ヲ設ケ、備禦ノ策、固ヨリ緩フス可カラズ、其急ナルモノ、近海ノ要地ニ堅牢ノ砲臺ヲ築クベシト、其方略ヲ圖畫シ獻ス、○文部大輔田中不二麻呂奏ス、今ヤ奎運方ニ兆シ、民智漸ク開クルノ時ニ際シ、各地方ノ教育、漸次實際ニ赴キ、中小學校、及ヒ就學生徒ノ數、學資納附ノ高等、陸續増加シ、其方法各地異同ナキヲ得ズト雖モ、之ヲ要スルニ、誘掖獎導ヲ旨トシ、學資課賦ノ方法ヲ定メ、教科ヲ簡易ニシ、教員ヲ督勵スル等、其力ヲ竭スニ

至テハ、民智長進シ、治化洽浹ヲ裨補スル基ヒタリ、
故ニ全國教育ノ槩略ヲ設ケ、各地勸學ノ志氣ヲ鼓
舞シ、家戸遍ク隆盛ノ聖意ヲ奉戴セシムルヲ冀
ヒ、撰次スル所ノ、文部省第一年表ヲ進呈ス。○教部
大輔、穴戸璣、教院概表ヲ製シ、教導職一覽表ヲ併セ
上ル。○去春來、台灣蕃地事務局ヲ置ク、既ニ討蕃ノ
一舉畢リ、人心漸ク安寧ニ居ル、因テ事務局ヲ停メ、
長官ヲ解キ、共ニ本職ヲ守ラシム。○大隈重信建言
ス、後チ數月同局ヲ廢ス。○五日本月一日ヨリ、米國
郵便交換ノ條約施行ニ因リ、橫濱新築ノ郵便局ニ、
各國公使ヲ饗譙ス、内務卿代理伊藤博文主タリ、郵

便交換ノ局ヲ開業シ、書信ヲ實地ニ遞送スルハ、無
限ノ幸ナリ、將來我國ト西洋諸州トノ、通交利益愈
以テ盛大密著ナラント、彼我頗ル親睦ノ情狀ヲ顯
セリ。○議長伊地知正治、位階并ニ歲俸條列ノ議ヲ
建言ス、其略、維新以來、官制改定、較備ルト雖モ、位階
ハ只其名ヲ存シテ、其實無用ニ歸ス、且、官職ニ昇進
スル者、許多ノ俸ヲ享ルヲ榮幸トスレド、一度ヒ罷
免ノ日至レバ、匱乏無産ノ士民トナル、故ニ在職中
豫メ後計ヲ為サシムルヲ得ズ、抑官負ノ私利ヲ營ム
ヲ禁シ、庶節ヲ守ラシメ、以テ其職務ヲ勉勵ヒシメ
ン事ヲ要ス、西洋諸國ノ官制、此ニ見ル處アリ、停年

増給ノ法アリテ、其年勞ヲ賞シ、免職養老金ヲ給ス、
 今ヤ皇國位祿位田ノ制、西洋増給養ノ法等、交互斟
 酌シテ、制規ヲ設ケ、位階ノ虚譽ニアラス、且ハ風俗
 敦厚ナランコト必セリ、依テ撰次スル位階并ニ歳俸
 表條例等ヲ具シ、高裁ヲ仰ク。○權大法官平賀義實
 官制ヲ改正スルノ議ヲ建言ス、其略、法律ハ上下官
 民ノ同ク率由シテ、須臾モ離ル可ラザル者トス、故
 ニ歐米文明ノ諸國ハ、各省必ズ檢法官アツテ、常ニ
 省中ノ法律事務ヲ治メ、訟獄ノ事アレバ、必ズ該省
 ノ為ニ、斡旋拮据ス、諸省猶ホ然リ、況ヤ政府ヲヤ、且
 ツ夫レ政府ハ全國ノ罪犯ヲ發跡シ、之ヲ審院ニ申

告シテ、以テ人民ノ治平ヲ保護ス、焉ンゾ代言總裁
 官ヲ置キ、政府ノ為ニ代言セシメザルヲ得ンヤ、是
 レ表法卿ノ由テ設ケラル、所ナリ、今本邦ノ司法
 卿、未ダ政府ノ為ニ代言セズト雖モ、身卿相ニ列シ
 テ、全國ノ法律ヲ表明シ、依然タル外國ノ表法卿ト
 ルコト固ヨリ論ナシ、然レバ則チ、司法卿ノ職務モ、亦
 唯ダ審判ヨリ生スルノ末務ノミ、何ゾ司法ノ本務
 ト稱ス可ケンヤ、方今司法ノ官制、其本末差謬此ノ
 如シ、故ニ判事官ノ權輕ク、而シテ重權アル參議兼
 司法卿ニ隸ス、理勢固ヨリ之ガ下ツラザルコトヲ得
 ス、因テ判事ヲ舉グル者、深ク其撰擇ヲ慎マシ、判事

ト為ル者、亦未ダ必シモ其職掌ニ注意セズ、苟且因循以テ此堂々タル司法ニ從事ス、是方今事務ノ振ハザル所以ナリ、故ニ先ヅ事務ノ本末ヲ明カニシテ、以テ其官制ヲ改正スベシ、按ズルニ英ノ情義裁判長官ハ、上院ノ議長ニシテ、位王族ニ亞ギ、米ノ宸上裁判長官ハ、獨リ一步ヲ大統領ニ讓ルノミ、蓋シ表法卿ヲ以テ卿相ニ列スル時ハ、本末ノ分此ノ如クナラザルヲ得ザルナリ、又審官ハ、終身其職ヲ奉スルノ制アリ、今日此法ヲ外國ニ倣ヒ、改正ヤント欲セバ、左右大臣ノ中一人ヲ以テ大判事トシテ、司法審判ノ大權ヲ固フシ、權大判事ノ官等ヲ一二

等ニ陟シ、五六員之ニ副シテ、司法裁判所ヲ掌ラシメ、府ハ二等、若クハ三等官ノ中判事ヲ置キ、三等或ハ四等官ノ權中判事一二名ヲ副シ、縣ハ權中判事若クハ四五等ノ少判事ヲ置キ、事務ヲ專掌シ、事務ノ繁簡ニ從テ、或ハ權少判事ヲ副スベシ、別ニ大小解部ヲ以テ、區ノ審判ヲ主ラシム、是レ改正ノ着手ナリ、如此ハ大判事毫モ本省ノ拮据ヲ受ケザルヲ以テ、府縣ノ判事モ亦不羈ノ權利ヲ全フシ、知事縣令ノ攪擾ヲ受ケズ、仍ホ區裁判局アツテ、小獄輕訟ヲ理スルヲ以テ、府縣審院以上ノ大訟重獄ニ淹滯ノ患粗鹵ノ過チ少ク、判事ノ職務簡明ニシテ、其責

任重大トナリ、官民始テ審判事務ノ貴重タルヲ知
ラン、是木末ノ分明カニシテ、審判充分ノ權歸ル
所アレバナリ、○七日、御講書始メ、天皇皇后宮出御、
福羽美静、萬葉和歌集、山部赤人、望不盡山ノ歌ヲ進
講ス、元田永孚、書經大禹謨ノ首章ヲ講ス、○八日、陸
軍始メ、此日天皇、日比谷操練所へ臨幸、其式ヲ覽ス、
○九日、海軍始メ、兵學寮へ臨御、競漕操練、水雷火術
等ヲ覽シ、次ニ海軍歴史ヲ進講ス、諸官負生徒悉ク
拜聽セシメラル、○十一日、華族會館會同始メ、式ア
リ、太政大臣三條公實美、宮内卿徳大寺卿實則以下
百二十四人參集ス、議長醍醐忠順祝詞ヲ述ブ、時ニ

太政大臣諭言ヲ出シ、書記官之ヲ朗誦ス、畢リテ一
同放散、○項日天行痘流行、小兒ノ之ニ罹リ、斃ルモ
ノ甚ハダ多シ、因テ府下各區ニ、種痘出張所ヲ設ケ、
警官ニ命ジ、一般ニ分苗豫防セシム、○十二日、支那
帝殂ス、○十二日、東京府ニ於テ、俳優人及ビ音曲諸
藝師、軍談師等、營業ノモノ賦金上納ヲ定ム、各等差
アリ、各所引手茶屋ナルモノ亦同シ、○十三日、諸
鑛山借區開坑試堀ヲ許シ、従前營業ノ輩ヲ、官地拜
借ノ有無ヲ檢問ス、○日本坑法第八章中、掲載ノ坑
物稅收納、本年ヨリ姑ラク廢セラル、○十四日、東海
道大津驛ニ電信ノ分局ヲ設ク、○十五日、巡查並ビ

ニ選立番人死傷ノモノ、吊祭扶助療養料ノ規則ヲ更定ス。○婦女分娩ノ際、雙子或ハ三子ヲ産スル者兄弟姉妹ノ順次、自今前産ノ児ヲ以テ足姉ト定メシム。○去年、地所名稱ヲ改メラル、ヲ以テ従前ノ官廳地ハ、官用地ト更定ス。○十六日、延遠館ニ於テ、各國公使ヲ迎饗ス、是時澳地利公使、不日ニ暹羅ニ發航スト談ルヲ聞キ、我政府更ニ公使ニ依類シテ、工部省四等出仕大鳥圭介、大藏省七等出仕川路寛堂、租稅寮八等出仕河野通猷等ヲ俱ニセシム、蓋シ暹羅政府歐州ノ政体ヲ摸スル、東洋諸國ノ率先タルコト以テ、風俗貿易ノ景況、政体軍備ノ進歩ヲ見セ

シム。○西班牙共和政府、所領ヒリツヒース島ノ海關稅則ヲ變更シ、同國公使ヨリ新定稅目畧表ヲ呈ス。○十八日、御歌會始メ、天皇及ヒ皇太后出御親王以下宮内官貞華族等陪坐、詠歌ヲ進呈ス、都鄙迎年ヲ御題ト定メラル、去冬、宮内省廣告スル所、國內諸庶ノ詠歌モ亦此日ヲ以テ乙覽ニ呈スルナルベシ。○地方官員奏任以上ノ輩ヲ除服出仕スルト忌日數半減ヲ以テ許ス、若シ事務ノ急アル節ハ、半減内ト雖モ、其長官ヨリ許シテ、苦シカラズト定メラル。○二十日、宮内省中、大中少典醫、正權大少侍醫、大中少馭者、大少監雜掌長ヲ廢ス。○二十一日、權典侍柳

原愛子分婉、皇女降誕、御名ヲ薰子ト命シ玉ヒ梅宮ト稱ス。○府縣東京ノ出張所ヲ廢シ、二月一日ヨリ在勤ノ官員ヲ内務省ヘ出頭セシム。○府縣公私學校創立ノ條科ヲ定メ、公立私立ノ號ヲ以テ區別シ、學齡滿六年ヨリ、滿十四年ヲ就學ノ期トス。○先是、小學扶助委託金一年金三十萬圓ノ定額タリ、本年改メテ半歲六ヶ月ノ委託金額三十五圓ヲ配付ス。全國學齡子女ノ數五百萬人ト見積レバ、一箇七錢ニ該ツ。○先是、世上負債ノ者、失踪後ノ訴訟ハ、三十六ヶ月ノ時間ヲ俟テ、裁判スル成例タリ、本年改テ三月一日ヨリ、定約期限未滿ニテ、負債者ノ失踪ヲ

知ル時ハ、定約滿期ニ至リ、直チニ出訴スベク、或ハ債主未ダ負債者ノ失跡ヲ知ラズ、定約滿期且ツ出訴ノ期限盡ントスルヲ以テ、裁判官ノ與書ヲ乞ヒ、負債者ノ失跡ヲ知ル時ハ、其訴狀ヲ還呈シ、告訴セシム。○二十五日、嘉永癸丑以來、憂國慷慨ノ士、其志ヲ得ズ、宛死スルヲ輩、其靈魂ヲ東京招魂社ヘ合祀ス。既ニ京都東山配祀、及ビ各府縣招魂場ニ於テ、祭祀スル者、其他舊藩ニ於テ、殉國死節ノ士、其名湮滅祭祀ノ列ニ加ハラザル者、其履歷顛末ヲ記シテ上ラシム。○囚人衣食ノ料、官費ヲ以テ支給スルノ規則細目ヲ定メ、之ヲ施行ス。○先是、司法警察ノ事務

使府縣ニ委任セリ、自今檢事局ヨリ、直チニ派出シテ、地方警察官吏へ、處分ヲ指揮セシムル事モアル
ミシト、司法省ヨリ達ス、○二十六日、吹上濱離宮兩
禁苑拜觀、及ビ開拓使所轄ノ、東京官園縱觀ノ規則
ヲ定ム、

支那近況 ○此月帝ヲ殂スルヲ以テ、帝ノ叔父恭親
王ノ長兄、トン親王、帝位ヲ嗣グト云ヒ、醇親王ノ子
大寶ニ登ルト云フ、内閣ノ議未ダ聞ヘズ、

歐洲近況 ○去年歐洲列國ノ兵備皆盛大ニシテ、其
治平必ス保ツベシ、近時日耳曼ノ議政館ニ於テ、土
兵ヲ増募スルノ發議アリ、之ニ由テソノ兵備亦曾

有ノ大數ニ至ルベシ、佛國ノ土兵ヲ増募スルヤ今
歲ヨリ十二年ヲ出デズシテ、其數一百八十萬ニ至
ラン、其兵員ハ日耳曼ニ一等ヲ讓ルナシ、魯國ノ
如キモ、亦同前ノ時限ヲ出ズンテ、常備兵七十五萬
臨時兵一百七十四萬ニ至ルナラン、既ニ奧國ノ兵
備、其盛大ニ赴クヤ迅速ニシテ、曾テ六十萬ノ大兵
ヲ發セシメリ、伊太里ハ兵員四十萬アリ、土耳其
ハ二十萬ノ兵士アリ、而シテ英國ハ既ニ自國警備
ノ兵士五十萬アリシガ、又歐洲發出ノ兵員八萬ヲ
備フ、○去々年普佛戰爭ノ為メ、法國ノ軍費總計九
十二億八千八百萬フラングナリ、普國ノ計算未ダ

知ラズト雖モ、概算スルニ十一億四千八百萬ノラ
シグ餘ナルベク、ゴラジル及ビ、バウガイノ戦争費
三十億フランダ、西班牙嗣王論ノ戦争費十二億フ
ランダ、

英國○元帥「チエスネ」氏、兵制ノ方略ヲ論ジテ曰
ク、將來該國ノ兵制ハ、盡ク騎兵ヲ以テ之ヲ編成ス
可シ、蓋シ全國ノ兵士皆騎兵タラバ、歐洲列國中何
レノ軍兵ト雖モ、何ノ怖ル、ニ足ラン、今試ニ我國
三萬餘騎ノ大兵ヲ編成シ、整々堂々以テ歐洲大地
ニ亂入セバ、恰モ劍ヲ揮テ原野ノ草ヲ薙クガ如シ、
若シ敵兵十萬餘ヲ以テ我ニ接セバ、則チ其兩翼ヲ

進撃シ、更ニ其中軍ヲ混亂シ、而シテ兩翼中軍ヲシ
テ、互ニ應援スルコトナカラシメバ、之ヲ破ルニ何ゾ
難カラシ、是ヲ以テ敵兵愈多ケレバ、其死傷益甚シ
カルヘシ、○本年、北極海試見ノ船二艘ヲ出シ、船將
ハカビタンマルクハム氏ヲ以テ五月北溟ニ航行
セシメント決定ス、

佛國○大統領「マクマホン」ヨリ各黨ノ首領ナル者
ヲ集メテ會議アリ、一同ニ全ク國憲諸法ヲ檢査討
論セントフ、因テ上下議院ノ案ヲ公評セシム、可ト
スル者二百五十名ニシテ、不可トスル者四百二十
名ニ及ベリ、

魯國○海軍日誌、現今海軍ノ景況ヲ記載ス、曰ク魯
西亞海ニ在ル戰艦ノ總數二百二十五艘、其内二十
九艘ヲ甲鐵艦トス、諸艦合シテ載ル所ノ巨砲九百
二十一門、噸數十七萬二千四百〇一噸、蒸氣力二萬
一千九百七十八馬力、艦内ニ在ル士官一千三百〇
五人、内水師提督八十一名、索針者五百十三人、大砲
士官二百十人、機械運轉師百四十五人、機械製造師
五百四十五人、造船師五十六人、水師廳士官二百九
十七人、醫官二百六十人、文官四百八十人、諸級ノ属
吏二萬四千五百人アリ、此等ノ戰艦ヲ諸海ニ分配
スルノ左ノ如シ、バルチック海甲鐵艦二十艘、木製

汽船百十艘、内七十艘ハ巨砲ヲ載セズ、其外諸船載
スル砲數二百門、甲鐵艦ニ備フル者亦二百門ナリ、
ブラツク海甲鐵艦二隻、木製船二十九隻、巨砲ノ全
數四十九門、カスベヤン海木製蒸氣戰艦二十隻、内
一船ハ築造中、九船ハ巨砲ナシ、其外ノ諸船巨砲合
シテ四十門ヲ備フ、シベリアニ海蒸氣船二十八艘、
内七艘ニ備ヘタル巨砲三十六門アリ、アラール海
漁船六艘、内五隻ニ巨砲十三門ヲ備フ、ホアイト海
戰艦三隻、巨砲四門ヲ載ス、

葡國○大イニ海軍ノ勢ヲ張ラントス、數月前國會
ニ於テ、金三十七萬磅ヲ以テ、新タニ軍艦ヲ製造セ

ンヲ議定シ、雄偉ナル快兵船、巨大銃砲六門ヲ載セ、進退最モ迅速ナルモノニ隻ヲ英國ニ於テ製造ス、

西班牙國○廢后、イサヘラノ王子アルホンソ國民ニ翼戴セラレ、西王ノ位ニ即ケリ、廢后所有ノ金剛石ヲ糶賣セラルト、此寶石ノ評價千二百萬フラングナリト云ヘリ、○共和黨ノ大統領陸軍ヲ更張シ、自ラ軍務總裁ヲラントス、カーリスト黨、各處蜂起、其軍紀律ナク、常ニ抗敵橫行ヲ逞セント欲スルヲ見ル、キユバ島商人ノ代言者、某氏大統領ニ見クヘ之ニ説ニ、彼島煙草ノ稅、政府ニ大利益アルヲ述べ、

大統領ニ強ユルニ、至急援兵十二大隊ヲ遣リ、島中ノ賊ヲ平ケンコトヲ請ノト、

二月三日、陸軍省中造兵武庫ノ兩司ヲ廢ス、○先是女子師範學校ノ舉アリ、皇后宮大イニ嘉尚シ玉ヒ、文部大輔田中不二麻呂ヲ名シ、親諭シテ曰ク、女學ハ幼稚教育ノ基礎、忽諸ス可カラズ、我甚ダ之ヲ悅フト、乃チ内庫ノ金五千圓ヲ出シ、建築ノ經費ヲ助ケシム、○四日府下、居住地内ニ於テ、豚ヲ屠殺シ、不潔ノ臭穢、近傍ノ健康ヲ害スルニ因リ、別ニ屠豚場四箇所ヲ設ク、○戊辰以來、救助貸與ノ金穀類、自今國債寮ニ還納セシム、○天皇并ニ皇后宮ノ龍影ヲ

寫映シ、密賣スルヲ禁止ス。○諸布達ハ、事理ノ辨知
シ易キヲ旨トス、故ニ注意シテ平易ノ文字ヲ用ユ
ベシト頒布ス。○開拓判官西村貞陽ヨリ、北海道産
ノ腥膻獸ヲ東京博覽會ニ出品セリ。○北海道ニ開
拓草創ノ際ナルヲ以テ、一般ノ稅則モ行ヒ難ク、官
費ヲ以テ、民費ヲ補フテ少カラズ、因テ全道堤防道
路ノ脩築、又ハ賑給等、專ラ人民興益ノ用ニ充ツベ
キタメ、該地產物出港ノ稅則ヲ定メ、之ヲ施行ス。○
御陵制札ノ表面ニ、英佛文ヲ異同ナク書スベキ体
式ヲ府縣ニ頒布ス。○六日、全國海岸ニ在ル砲臺ヲ
崩壞シ、稻米耕作ノ地ト爲ス。○七日、外

國形日本船輸出入ノ稅未納内外貨物回漕ノ規則
ヲ定メテ公布ス。○先是議シテ、英佛兩國、我橫濱ニ
屯集スル所ノ兵士ヲ歸國セシム、公使等政府ニ書
ヲ上テ曰ク、初メ貴國世治リ政整フニ至ルマデ、我
兩國政府ニ於テ、條約ノ權理ヲ保護スル為メ、兵ヲ
貴國ニ屯シ、併テ國人財物等ヨリ事ヲ生スルナキ
ヲ要シ、他日紛擾ノ萬一ヲ防ク、而シテ貴國非常更
始ニ際シ、葛藤ヲ醸セザル、亦此兵ノ庇護ニヨルテ、
目撃セララル、所ナリ、然ルニ貴國追々平穩ニ歸シ、
政令全備スルニ隨ヒ、締盟兩國ノ兵負漸々ニ少減
ス、客冬ニ及ビ、貴國太平ノ障ヲナス可キ天氣彌消

減スルニ當リ、我兩國政府ニ於テモ、殘兵ヲ班スノ
議定ル云々ノ政府ニ於テ、貴國ニ在ル各國人民ニ
安堵ヲ得ント、於是外務卿寺島宗則ヨリ答書シテ
曰ク、我國維新以前ノ形勢寧靜ナラザルヨリ、兩國
政府、兵隊駐留ノ事ヲ致入、我皇帝陛下國政ヲ更張
シ、外國ノ交際、益親密ナルニ隨ヒ、國民モ亦其旨ヲ
奉シ、今日ノ舉アルヲ致ス、兩國政府ニ於テモ、最モ
相歡スベキ所ニシテ、交際上一層ノ親愛ヲ重ヌ、素
ヨリ我政府ノ希望スル所ナリ、蓋外國人兵ヲ置キ、
自カラ護ルハ、我政府ノ最モ耻ル所ニシテ、此一舉
實ニ我面目ト云ハザル可ケンヤト、尋テ英國海軍

大將カビタン、リツチャールズ氏、并ニ士官四人ヲ
延遼館ニ招餐シ、天皇親カラ賜フニ、龍影并ニ皇后
ノ照影ヲ以テス、○八日、府縣廢合、及ビ村落合併ハ、
人民特別ノ便宜ニ因ルカ、或ハ實際不得已ノ事故
アル外ハ、自今廢合改稱等ヲ禁ズ、○埋立耕地宅地
等、自費開墾出願ノ際、他人ノ望ナクハ、水面埋立ノ
カ、無價ニシテ下渡スベク、附寄洲或ハ自然堆積乾
燥シテ、平常水浸サミル者ハ、相當ノ代價ヲ以テ、拂
渡スベキ旨ヲ、内務省ヨリ布達ス、○武藏國羽根田
ニ、不動綠色ノ燈臺ヲ建築ス、○九日、文官大禮服着
用ノ際ニ行フベキ敬禮式ヲ圖シ、之ヲ頒行ス、○先

是平民苗字ノ稱呼ヲ許サル、祖先以來苗字曖昧ナルハ、自今新ニ設ケ唱ヘシム、○郵便切手七種ヲ製造シ、之ヲ信書ニ貼用セシム、○十三日、臺灣蕃地處分ノ際、備使夫卒等、死亡ノ者、其遺骸ハ同縣下ニ埋葬地ヲ設ケ、葬祭ヲ行フニ及ブ、故ニ徵募ノ際、其本貫郷里ヲ識ラズ、或ハ自カラ其居處姓名ヲ變ズル者、苟モ國事ニ斃レ、其名籍湮滅ニ至ルハ、愍然ナルヲ以テ、各地方官ニモ精覈調査ヲ遂ゲ、上申スベキ旨ヲ布告ス、○陸軍卿山縣氏、中將西郷氏等、橫濱ニ行キ、英佛軍隊ノ銃槍操練ヲ觀覽ス、畢リテ軍制等ノ事ヲ聞キ、英國ノ大將コロ子ルリツチヤルドニ

向ヒ、之ヲ陳謝ス、軍隊モ亦送迎ノ禮式ヲ盡クス、○十五日、西京府下ニ司藥場ヲ設ク、○十七日、陸奧國大森竿燈明臺、従前白色ナルヲ、本年三月十五日ヨリ、赤色ニ變換ス、光達距離舊ニ仍ル、○十九日、華族ノ葦養女願ハ、自今管轄廳ニ於テ許可ス、○蔓陀羅華種子ハ、毒藥品クル故ニ、漫リニ取扱ヘバ、不測ノ危害ヲ生ス、因テ府下種物店賣鬻注意スベシト文部省ヨリ布達ス、○先是、千葉縣ハ舊水更津、印幡ニ縣合併シ、一大縣ト成ル、初水更津縣管内ヘ育兒ノ方法ヲ設ケ、特ニ拜借金ヲ下ゲ、有志ノ募金ト合セ、實際ニ施行スル由リ、積年ノ惡弊タル、墮胎廢死等

漸次ニ減シ、生兒育長ヲ得ルニ至ル、遂ニ千葉縣内
一般育兒ノ法、現今盛ンニ施行スル表ヲ作り、此日
内務省ニ上申ス、○二十日、煙草稅ハ、明治九年一月
ヨリ、課稅スベキヲ布告ス、○從來雜稅ト稱スル者、
舊慣ニ因リ、區々ノ收稅ニテ、輕重有無不平均ナル
ニ付キ、本年ヨリ一切廢止シ、其中收稅セザレバ營
業ニ現今妨礙ヲ生スル品物ノ、地方ニ於テ改テ
收稅スベキ旨ヲ布告ス、○二十二日、招魂社ニ於テ、
臨時ノ大祭ヲ行フ、天皇臨幸、臺灣征討ノ海陸軍士
官兵士之ニ陪シ、競馬角力等ノ觀アリ、○二十八日、
壹圓銀改テ貿易銀ト唱へ、頒行ス、○民事訴訟ノ審
判中、人民ヲシテ旁聽スルヲ許ス、公裁ノ節、被告原
告人、其訟ノ條理ヲ辨知スル者ハ、更ニ親戚朋友ノ
同伴ニ及ハズ、直チニ自陳セシム、○凡等外吏ニ準
スル者、犯罪條例、戸長ヲ除クノ外、罪ヲ犯スニ俸給
等外四等ノ金額ニ及バザル者及ヒ日傭ノ者ハ、並
ニ本籍ヲ以テ論スト、改正ス、○先是佐賀舊主贈從
二位鍋島直正、夙ニ報國濟世ノ志ヲ抱キ、自振シテ
舊習ヲ改革シ、各藩ニ先チ、西洋諸州ノ事情ヲ探リ、
以テ皇國開化ノ基ヲ助ク、加之戊辰以來、朝命ヲ欽
承シ、賊徒ヲ討平ゲ、尋テ封土ヲ奉還シ、或ハ北海開
拓ノ命ヲ奉ジ、或ハ内閣樞機ノ任ヲ恭クシ、今日太

政維新ノ美ヲ成ス者ト云フ可シ、所謂世ニ大功德
アル者ハ、之ヲ崇祀シ縣社トスル例ニ倣ヒ、直正ヲ
祀ル所ノ松原社、特ニ縣社ニ定メ、永ク其功德ヲ顯
著セントヲ望ムト、同縣今北島氏之ヲ建言ス、○札
幌本廳ヨリ、郵便線路開設往復發行ヲ定メ、本年一
月ヨリ日割ヲ以テ出發セリ、○先是陸軍兵學寮士
官生徒宇和地新八、罪ノ疑ハシキヲ以テ、妄リニ人
民ヲ縛スベカラザルノ建言ニ付キ、左院ヨリ捕亡
吏ノ粗暴、監倉ノ苦情、其所說ニ依テ事情洞察ノ一
助ニモナラント、上申ス、新八ナルモノ、去年九月中
第一大區警視出張所ヨリ、茨木縣下ニ追捕セラレ、

於是警視廳職務上ニ關涉スル事ニ因リ、本人逮捕
ノ次第、并ニ建言虛妄ノ條件ヲ、左院へ具報ス、左院
モ亦本人ノ所說ヲ偏聽シ、警視廳斯ノ如キ處分
ル事ト、信用セシニ非ラズ、考勘ノ為上申スト、回答
セリ、○頃日、熊谷縣下、上野國甘樂郡榑原村、農黑澤
平七郎、父利助ノ仇タル村鑛八郎ヲ復讐セント、出
願ス、警視廳鑛八郎ヲ拘引糾問スルニ、其罪狀明瞭
タルヲ以テ、司法省へ送致ス、鑛八郎ナル者ハ、元嚴
原藩士村倉次郎ノ子タリ、父倉次郎、朝鮮國ヨリ累
年舊政府へ貢納ノ金銀ヲ以テ、贖金製造スル一舉
發露ニ及ビ、藩主對州へ送り、謹慎セシム、然レ此

一事、村一家ノ安危ニ關スルヲ以テ、竊ニ主家ヘ獻
金シ、請求スル所アラントス、於是倉次郎ノ縁類黒
澤利助ナル者ヲシテ、商小鹿原某ヲ頼ミ、宗家ヘ始
テ收納ス、而シテ倉次郎一家利助ニ謝義ナシ、適利
助火災ニ罹リ、屢々助力ヲ乞フト、雖モ、因循果サズ、
於是利助憤然、小鹿原某ニ迫リ、彼千圓ノ証書ヲ借
用シ、以テ村氏ニ脅迫ス、其頃倉次郎ノ長子金七郎
ハ京師ニ居留ス、鑛八郎事ノ漏レシトテ患ヒ、乃チ
金五十圓ヲ利助ニ與フ、利助可カズ、既ニシテ金七
郎歸府ス、利助之ニ迫ル、鑛八郎其席ニ在リ、不得已
深川ノ酒樓ニ同伴シテ示談ス、時ニ三人酣醉ノ餘、

利助暴言ヲ發シ、村兄弟ヲ大ニ罵詈ス、金七郎之ヲ
含ム、既ニシテ夜深シ、酒樓ヲ下リ、家ニ歸ラント、共
ニ塗ニ就ク、金七郎憤怒ニ勝ヘズ、背後ヨリ刀ヲ以
テ利助ヲ刺ス、利助遽ニ水中ニ逃入ル、金七鑛八後
難ヲ圖リ、尋テ跳入り、左右ヨリ之ヲ夾殺ス、金七郎
ハ宿意アリテ、利助ヲ刺殺セシ條件ヲ幕府ニ自首
シ、終ニ逃亡ス、其蹤跡ヲ詳カニセズ、時ニ慶應二年
二月ノ事ナリ、其後鑛八郎轉居シ、今淺草ニ居住ス、
利助ガ實子平七郎之ヲ聞キ、乃チ復讐ノ舉ヲ政府
ヘ出願セシトゾ、
支那近況○清國官制ニ於ケル滿洲人種ニ非レバ、

一等大臣ニ任ゼブ同治帝殂落ノ三日、前詔シテ支那人種ノ李鴻章ヲ大學士ニ任ズ、大學士ハ滿洲人瑞麟、終身權威ヲ握リタル内閣第一等ノ高官ナリ、而シテ鴻章ニ此官ヲ授ケ、第二ハ滿洲人寶鋆、第三ハ又支那人、第四滿洲人トス、任官斯ノ如キモノ、清國朝廷大變革アル企ナラン。○先帝謚ヲ毅皇帝ト稱ニ廟ヲ穆宗ト定ム。○今茲冊立セラレタル新帝ハ醇親王ノ子ニシテ、年甫ノ四歳ナリ、今ヨリ凡ソ十五年ヲ經過セザレバ、國政ヲ躬ラセズ、其間前後ノ攝政トス、其婦女タルヲ以テ、外國公使ノ謁見ヲ許サザルヲ猶同治帝ノ幼時十二年間、前後攝政ナ

リシガ如クナラン。○支那廈門ニ於テ、再ビ電線取設ケノ事ニ妨害起レリ、則チ去月二十二日、支那ノ一揆等手ニ刀槍等ヲ持チ、近傍ヨリ來聚リ、電線架渉ニ着手セル、支那人ヲ襲撃ニ、衣物ヲ奪セ取レバ、支那人悉ク恐怖逃去タリ、一揆ノ大將ハ、元衙門ノ官貞ニテ、脱走シタル者ナリ、是時居合ハセタル外國人更ニ手ヲ出サズ、彼ヨリ我ニ負傷セザレバ、兵器ヲ以テ争鬪スベカラズト、指揮シテ漫リニ兵ヲ交ヘズ、翌朝ニ至リ、カビタンホスキール氏ハ、同業ニ關セル外國人ヲ率キ、ワシトウノ地方官ニ至リ、襲撃ノ舉ヲ陳告スルニ、地方官之ヲ肯セズ、曰ク今

朝始テ騷擾ノ事ヲ聞ク、且予ガ管下ノ人民之ニ關スルコトナシ、多クハ是附隣ノ人民ナラシ、固ヨリ我管下ノ民ハ、電線ヲ拒マザル耳ナラズ、却テ社中ノ工夫ヲ助力セント欲ス、然レバ此襲撃ハ、全ク官吏ノ舉ニシテ、且此社中往々戰備ヲナシテ、架渉ノ工ニ着手セズンバ、成業ノ能ハザル事明ナリ、於是ホスキール氏ハ、決議シテ、遂ニ社中人員ヲ悉ク引率シ、一ト先ツ福州ニ退キ、其後社中ヨリ支那官員へ、屢々應接アリト云フ、○福州ニ於テ別ニ外國監督人ヲ備ヒ、一ツ砲局ヲ開ラク、ベツト氏ハ水雷火局ノ職ニ就クカ為メ、英國ヨリ着港セリ、其他來集ノ

者多シ、

歐洲近況魯國○兵隊三十五萬人ヲ容ルヘキ陣營ヲ、日耳曼境界保護ノ為メ、建築ノ議アリ、豫防ノ為メ、非カ○黑龍江ノ近地、ウツシユリ部ノ騷擾ハ既ニ鎮定ニ及ビタリト又チエングセシノ賊徒ハ、支那兵士ノ既ニ魯西亞領内ニ凡ソ一百ウエルスト入り來ルヲ見テ、大ニ懼レ、悉ク奔竄シテ、跡ヲ山野ニ隱ス、魯國兵隊ハ、動搖ノ地方ヲ鎮定センガ為メ、派出スト、

三月三日、去年佐賀縣賊徒征討及ビ台灣蕃地處分ノ際、陸海軍士官兵隊夫卒等、戰死ノ者祭祀トシテ、

勅使發遣是月二十二日長崎縣下梅ヶ崎埋葬地ニ於テ祭典ヲ行ヒ死亡者ノ親屬吊拜ヲ許サル乃チ式部助五辻安仲勅使ヲ奉シ陸軍中將西郷從道祭主タルヲ以テ熊本鎮臺歩兵一中隊ヲ此地ニ出張ヒシム○五日天皇橫須賀造船場ニ幸シ新製ノ軍艦清輝號ノ水卸シ式ヲ覽ス此日市街毎戸國旗ヲ掲ケ港内ニ在ル諸艦ハ數色ノ旗號ヲ建列シテ裝飾トス式畢リテ衆人ノ拜覽ヲ許ス○七日電信賃錢表和横文トモ改正去明治七年中各局收入ノ音信料ヲ通算スルニ凡金拾壹萬五千四百貳圓貳拾三錢五厘ナリ○國內回漕規則既ニ公布ニ付テハ

各管下船政所ノ負數并ニ地名等ヲ記載シ之ノ内務省ヘ出サシム○八日從三位木戸孝允參議ニ任ジ十二日正四位板垣退助參議ニ任ズ○海陸軍ニ省ニ命ジ去年台灣蕃地ニテ戰死ノ士ヲ招魂社ニ合祀セシム○文部省所轄ノ小石川藥園ヲ植物園ト改稱シ湯島博物館書物館ヲ博覽會事務局ニ合併ス○先是開拓ノ業漸ク成リ戸口繁殖ス因テ壯丁召募兵隊編制ヲ定メ是月ニ至リ北海道ニ始テ屯田憲兵ヲ設ケ旧館縣及ヒ青森酒田宮城三縣ノ士族強壯ニシテ兵役ニ堪ユベキ者及ヒ平民中其志望アル者ハ之ヲ適宜ニ精選編入シ乃チ縣士ノ

強壯者千五百人ヲ、三年ニ配賦シ之ヲ石狩國札幌郡ニ舉家移住セシメ尋テ開拓使中ノ官等ヲ更正ス、○九日、融通不便ノ金銀貨幣、交換ノ條則書ヲ與ヘ、各地方廳便宜ニ任セ、銀行或ハ為換方ヲシテ、一般ニ交換ス、○十三日、寺院廢立并ニ住職進退ハ、自今明細表ヲ製シ、一年毎ニ取纏メ、之ヲ教部省ヘ出サシム、○一ノ關ヨリ盛岡ヲ經、青森ニ至リ、福山港ヨリ、函館札幌ヲ經、小樽マデ電線落成、是月二局ヲ開キ、通信ヲ試ム、○外國形日本船輸出入稅未納、内、外貨物田漕ノ規則、及ビ北海道諸產物出港稅則等ヲ更正シテ、之ヲ施行ス、尋テ車稅ヲ定ム、○蠶種製

造組合條例并ニ組合會議局規則ヲ定ム、○内國郵便為替一紙ノ証書、金高ハ三十圓マデ、端數ハ一厘マデヲ限リ、四月一日ヨリ施行ス、○十四日、先是捕亡吏番人等ノ名稱ヲ廢シ、選卒ト改メ、行政上ノ警察規則ヲ定ム、故ニ其職務ノ要ヲ分チ、人民ノ妨害ヲ警防シ、及ビ健康ヲ看護シ、放蕩淫佚ヲ制止シ、國法ヲ犯サントスル者ヲ密察スル四事トス、○十八日、肥前國佐賀ヨリ肥後熊本マデ電線架涉既ニ成ル、同所ニ分局ヲ建置シ、通信ヲ試ム、○常陸國新治郡藤澤村神宮寺中ニ在ル、萬里小路藤房リ遺趾ニ、建碑ノ地ヲ賜フ、○金穀出納期限釐正ニ因リ、百般

ノ收入、及び經費等一歳ノ総額ヲ豫算シ、各府縣ヨリ、大藏省ヘ出サシム、○二十日、官立小學師範生徒、入學ノ規則ヲ布告ス、且學科成業ノ者ハ、各地公私小學校ノ訓導職ニ任用セシム、○海外ニ米穀輸出ヲ許ス、府下米價之ガ為メニ沸騰、○二十四日、内務大藏兩省ノ間ニ、地租改正事務局ヲ置キ、地租ニ關スル、一切ノ事務ヲ掌管セシム、○大坂府下ニ司藥場ヲ置ク、○奈良縣下東大寺、其他寺院ニ在ル勅封寶物、自今内務省ノ所轄トシ、永世保護ノ方法ヲ談ケシム、○二十八日、先是、開拓使備教師頭取兼顧問セ子ラル、ホーレシ、ケプロン開拓ノ業ニ盡カシ、三

年間、蝦夷地開發氣候物産ノ事ニ至ルマデ、辨明實驗セリ、是ニ於テ、期滿チ、將ニ歸洋セントス、宮内省ニ召シ、天皇謁見ヲ賜フ、勅シテ曰ク、汝ヲ聘シ、北海道開拓ニ從事セシム、能ク長官ヲ補佐シ、黽勉職ヲ盡スヲ以テ、事業皆其要ヲ得、漸次ニ進歩セリ、朕深ク之ヲ嘉賞ス、將來全道ノ繁殖ヲ致シ、我國家ノ洪益ヲラシム、復々疑ヲ容レザルナリ、今期滿テ歸ラシトス、朕汝ガ功勞ヲ表シ、併テ將來ノ幸福ヲ望ムト、○琉球藩三司官、池城親方與那原親方幸池親雲ヘモ、謁見ヲ賜フ、○三十日、府下京橋ヨリ萬世橋及ビ常盤橋外水町通り、淺草橋内ニ至ルマデ、瓦斯燈

建築始テ成ル、尋テ淺草廣小路ニ及ブ、

四月一日、南都東大寺ニ於テ、博覽會開場、聖武天皇
爾來寶藏スル蘭奢ノ名香、玳瑁ノ基盤、白玉ノ大盤、
及ビ琴瑟鏡器古書經卷等ヲ陳列シ、好古ノ輩ハ縱
覽セシム。○四日、天皇墨水ニ行幸、小梅德川、昭武ノ
邸ニ駐輦、同家所藏ノ義公烈公并ニ鄭成功朱舜水
等ノ遺書ヲ天覽アリ、殊ニ烈公天保年間ヨリ、幕府
ニ建言ノ草稿數卷ハ、多年皇國ノ為メニ、鞠窮盡悴、
誠忠ヲ竭ス所ニシテ、生氣凜然、當時ヲ想見スルニ
足ル、天皇深ク敬感シ、玉ヒ、昭武ニ勅シテ曰ク、朕親
臨シ、光圀齊昭ノ遺書ヲ觀テ、其功業ヲ追思ス、汝昭

死二萬人、歐米ニテ洪水ノ為メ、命ヲ失フ者三千二
百六人、五十四艘ノ難船ニテ、千三百三人、大風ニテ
九百四十人、火災ニテ七百四十人、種々ノ破裂
ニテ二百七人、雪崩レニテ五十六人、鐵道不慮ノ難
ニテ四十三人、総計九萬六千五百七十三人、

地方會議

先是、各地方ノ長官ヲ召集メ、人民ニ代リ、公論與議
ヲ以テ、律法ヲ定メ、上下協和、民情暢達ノ路ヲ開ク
バキ、聖旨ニ基キ、議院憲法ヲ修正シテ、頒示シ、尋テ
淺草東本願寺ヲ會議院ニ定メ、參議木戸孝允之ガ
長官トシ、其議スル御下問ノ條件、道路隄防橋梁地

方警察地方會議貧民救助ノ方法、小學校設立保護ノ五條ニシテ、既ニ民會ヲ開キ、人撰ノ整タル者、或ハ區戸長兩三名ヲ限リ、一管内ヨリ傍聽ヲ許シ、茲ニ六月二十日、開院ノ式ヲ行フ、議長議員書記官等、議院ニ參列、天皇臨幸、乃チ勅諭シテ曰ク、茲ニ地方會議ノ始、朕親臨シテ、汝各官ニ詔ス、朕經國治民ノ易カラザルヲ思ヒ、深ク公論衆議ニ望ム、アリ、今汝各官、地方ノ重任ニ居リ、親ク民情ヲ知ル、誠ニ能ク同心協力シ、事緒多端ナルモ、務メテ是ヲ先ニシ、議論異同アルモ、要スルニ其歸ヲ一ニシ、專ラ衆庶ノ為メニ、公益ヲ圖テ、ハ斯會將ニ國家無疆ノ幸福

後場ノ帳簿ニ記載シ、奥書判印アル公正ノ證書タルヲ以テ、若シ身代限財産ノ中、賃入又ハ書入ノ地所アリ、其債主揭示中ニセザル者、其地所羅賣代價ノ中ニテ、債主受取ルベキ元金高、羅賣金配當マテノ利子ヲ加ヘ之ヲ引去、裁判所ニ於テ、官吏印封シ、戸長後場ニ預ケ置キ、後日債主出願ノ期ニ、之ヲ下ゲ渡ス、一ニ規定ス、○勲績及ビ功勞アル者ヲ賞スル為メニ、其等級ヲ分チ、賞牌ヲ佩用セシム、其效ニ曰ク、凡ソ國家ニ功ヲ立テ、績ヲ顯ス者、宜シク之ヲ褒賞シ、以テ之ニ酬ユヘシ、仍テ勲等賞牌ノ典ヲ定メ、人々ヲシテ寵異表彰スル所アルヲ知ラシメシ

トス、汝有司、其斯旨ヲ體セヨ、○十三日、越後國大河津分水ノ業ハ、積年ノ爭議タリ、土人頗ル騷擾ヲ生ス、新潟縣令楠本正隆ヨリ、亦水事業ヲ廢止シ、後日信濃川本線實測ノ上、水害防禦ノ方法、着手ノ旨ヲ告諭シ、五年以來ノ課金、九萬九千圓餘ヲ賜ハリ、貸金十壹萬六千圓ヲ賜フ、土民歡呼ス、○華族上杉茂憲父齊憲、養母存生中、厚ク孝養ヲ盡スヲ嘉賞セラレ、特旨ヲ以テ金時計ヲ賜フ、茂憲伯母上杉鶴遊モ、同シク賞賜アリ、○十四日、左右院ヲ廢シ、元老院大審院ヲ置ク、詔ニ曰ク、朕即位ノ初、首トシテ羣臣ヲ會シ、五事ヲ以テ神明ニ誓ヒ、國是ヲ定メ、万民保全

ノ道ヲ求ム、幸ニ祖宗ノ靈ト、羣臣ノ力トニ賴リ、以テ今日ノ小康ヲ得タリ、顧フニ中興日淺ク、内治ノ事、當ニ振作更張スベキ者少シトセス、朕今誓文ノ意ヲ擴充シ、茲ニ元老院ヲ設ケ、以ニ立法ノ源ヲ定メ、大審院ヲ置キ、以テ審判ノ權ヲ鞏クシ、又地方官ヲ召集シ、以テ民情ヲ通ジ、公益ヲ圖リ、漸次ニ國家立憲ノ政體ヲ立テ、汝衆庶ト俱ニ、其慶ニ賴ント欲ス、汝衆庶、或ハ舊ニ泥リ、故ニ慣ル、ナク、又或ハ進ムニ輕ク、為スニ急ナルヲナク、其レ能ク朕ガ旨ヲ體シ、翼贊スル所アレ、○式部寮ヲ宮内省ニ附シ、諸官任叙、従前式部寮傳達ノ處、自今改メテ正院ヨ

リ達スベク、同院中、歴史課ヲ脩史局ト改稱ス、○二十日、下總國千葉郡習志野原練兵場百五十七萬七千四百五十坪ヲ官用地トシ、陸軍省ニ付與セシム、○二十三日、官吏居住地ニ在テ開店シ、他ノ品物ヲ買入シ、之ヲ鬻ギ、或ハ他ノ生産物ニ製作ヲ加ヘ、販賣利ヲ獲ル商法ヲ禁止ス、其家族ヲシテ、商業ヲ營ム者ハ、分籍別戸スベク、凡ソ鑛山借區、及ビ田地ヲ所有シ、其生産物ヲ賣却シ、或ハ屋舎金銀ヲ人ニ貸與フ等ハ、賈術ノ業ニ涉ラザルヲ以テ、特ニ之ヲ許可ス、○二十五日、元老院ヲ左院ノ跡ニ置ク、院中議長副議長、議官ハ、一等官ノ地位トシ、大書記官ヲ四

等ニ當テ、自餘コレニ準ス、○戊辰以來、從軍徇難ノ士、各地戰没ノ所ニ在ル墳墓、及ビ招魂社ノ經費、一歲ノ定額、金三十五圓ヲ以テ、一社ニ充ツ、○三十日、諸道各驛ノ陸運會社、多ク官ノ誘勸ヲ以テ、結社スルヨリ、私會ノ体裁ヲ失フ、因テ本年五月三十一日限リ、悉ク解社セシム、○本年前半歲入出豫算會計表ヲ製シ、大藏卿大隈氏ヨリ、之ヲ上ル、○記録文書ハ、各廳ニ於テ、紛亂散佚シ、或ハ水火ノ災ニ罹ル時ハ、他日ノ照會ヲ失ヒ、事務ノ困難ヲ生ス、因テ保存ノ方法ヲ設ケ、一層注意スベキ旨ヲ布告ス、○内國船難破、及ビ漂流物處分ノ規則ヲ定メ、本年六月一

日ヨリ施行セシム、○大久保内務卿、米國博覽會事務総裁ヲ兼任ス、○是月、朝鮮國ニ於テ、官吏二名斬首セラル、蓋シ我日本ヨリ、條約ニ赴キシ、使節ノ間ニ立シ故ナリト、

五月二日、神道各宗合併教院ヲ設ケ、布教スルヲ止メ、自今三條ノ教則ヲ遵奉シ、各自ニ布教スベキ旨ヲ布達ス、○音曲諸藝師、賦金上納中、盲人自宅ニテ、子弟ヲ集メ、音曲授業ノ今ハ、賦金免除タラシム、○四日、司法省中、明法寮ヲ廢シ、檢事ノ官等ヲ改ム、正權大、中、少判事、及ビ解部ヲ廢シ、判事判事補ヲ置ク、自是判事ハ一等ヨリ七等ニ至リ、判事補ハ一級ヨ

リ四級ニ分チ、之ヲ官等ニ當ス、○芝濱松町、二品有栖川熾仁親王ノ邸ニ行幸、侍講福羽美靜扈從シテ、作文一篇ヲ獻ス、○七日、海軍省中造兵武庫ノ兩司ヲ廢ス、○内國人原告ニテ、外國人ニ係ル、民事刑事ノ訴訟ハ、原告人、其事由ヲ各開港ノ府縣廳ヘ申告シ、其廳ノ副書ヲ得、被告人管轄ノ各國領事官ニ出訴セシム、○各裁判所ヨリ呼出シ、無罪ニ歸スル者ニ與フ、旅費ハ、自今其呼出シタル裁判廳ヨリ、之ヲ支給ス、○八日、新治縣ヲ廢シ、下總國香取、匝瑳、上海ノ三郡、千葉縣ヘ、常陸國新治、筑波、信太、行方、鹿島、河内、六郡、并ニ千葉縣管轄下、總國、猿島、結城、岡田、豊田

四郡及比葛飾郡内四十八村、相馬郡内九十九村ハ、
 茨城縣ノ管轄クラシム。○屋敷地ノ外地歩百坪以
 下、割賣ヲ禁止セシ處、人民便利ノ為メ、耕地宅地山
 林等、潭テ畝歩ノ多少ニ關セス、切歩賣買ヲ許ス。○
 違式証違條例第四十四條ノ但書陸海軍ノ諸兵隊
 伍ヲ組ミ、夜陰行進、及ビ隊外士官ト雖モ、非常警戒
 アル時ハ此限ニ非ラズト改正ス。○九日、陸軍省中、
 兵學寮ヲ廢ス。○平民有祿ノ者、本年ヨリ華士族ト
 同ク、賞典祿ヲ除クノ外、祿稅ヲ收入セシム。○大審
 院ヲ明法寮ノ跡ニ置キ、玉乃二等判事、同院長官ノ
 心得ヲ以テ、事務ヲ管掌ス。○十二日、明治六年六月

始テ證券印稅規則改定ニ因リ、七年八月三十一日
 以前ニ、取結ビタルモノト雖モ、諸約定書、或ハ帳簿
 主ニ於テ、舊規則相當ノ印紙ヲ貼用出訴スル時ハ、
 裁判スベキ旨ヲ頒布ス。○金穀貸借証書面員數ヲ
 漫リニ改作塗抹シ、或ハ一二十等ノ數字ヨリ、他日
 紛雜ヲ醸スル勢カラズ、凡ソ証據ヲ要トスル書類、
 自今一二十ノ數字ニ限り、壹貳拾ノ字ヲ用井、更ニ
 注意スベシト、一般ニ曉諭セシム。○十四日、東京以
 北電信線、後志國小樽マデ、接續通信ニ及ブ、故ニ海
 外音信料ヲ定ム。○先是津田仙、澳地利國博覽會ニ
 隨行シ、傳習ヲ受ケタル、麥花媒助法ヲ、瀧ノ川飛鳥

山ノ下ニ於テ施行ス、觀者殊ニ多シ、○別格官幣社、自今談山神社、護王神社、湊川神社、建勲神社、豐國神社、東照宮ト、其順次ヲ定ム、○十五日、英國新製ランプ、東京新富町通り、并ニ白魚橋南岸ヨリ、伊勢町河岸マデ、建設乃チ成ル、○十八日、琉球藩漂流慘毒ニ罹ル者、撫恤米千七百四十石ヲ分給シ、且航海風浪ノ難ニ値ヒ、憫然タルヲ以テ、蒸氣船一艘ヲ賜フ、自是藩内保護ノ為メニ、熊本鎮臺分遣隊ヲ置ク、○諸品賣買ノ約定、其他取引ノ結約証書ノ趣旨ハ、渾テ明確ニ記載シ、疎漏曖昧ナク、注意スベキ旨ヲ一般ニ布告ス、○二十日、三品王伏見朝彦、特命ヲ以テ、

仁孝天皇養子ニ復サレ、親王タラシム、○米穀相場會社稅額ハ、手数料、其他現收スル、總金高十分ノ四ト改ム、○二十三日、火葬禁止ノ布告ヲ廢ス、○二十四日、歷朝天皇并ニ皇右皇子等、殯斂地舊迹ノ判然タル場所ハ、官有地ニ編入、保存スベキ旨ヲ布達ス、○大審院諸裁判所職制章程ヲ定メ、東京大阪長崎福島四所ニ、上等裁判所ヲ置ク、尋テ控訴上告ノ順序ヲ定ム、凡ソ府縣裁判ノ初審ニ服セズ、再訴覆審ヲ求ル者ヲ、控訴ト云、民事ニ止リ、刑事ニ及ハズ、而シテ各裁判所ノ終審ヲ不法トシ、大審院ニ向ヒ、取消ヲ求ル者ヲ、上告ト云、凡ソ上告スルヲ、裁判管理

ノ權限ヲ越エ、或ハ聽斷ノ定規ニ乖キ、法律ニ違フ
 條件ニ止ルノミ、○先是頒布セル民事控訴略則ヲ
 廢ス、更ニ控訴上告規則ヲ布告ス、○二十五日、改正
 新舊公債証書發行ノ條例ヲ頒布ス、○二十六日、驛
 遞寮大阪出張所ヲ廢シ、出張郵便局ト改稱ス、○陸
 軍中將西郷從道ヲシテ、米國博覽會事務副總裁ト
 ラシム、○米穀賣買會社創立ノ準則ヲ定ム、自今設
 立ノ志願アル者ハ之ニ準據スベキ旨ヲ大藏省ヨ
 リ布達ス、○二十九日、下總國習志野原ヘ行幸、歩兵
 野營演習ヲ覽ス、畢テ下志津原ニ於テ、射的演習ヲ
 試ミラル、○酒類稅則ヲ定メ、其取扱ノ心得書ヲ頒

布ス、○三十日、秘魯國ト條約始テ交換、○三十一日、
 海軍官船ヲ除クノ外、西洋形船へ、賊難防禦トシテ、
 大小砲設備ヲ許シ、砲門彈藥ノ數ヲ定ム、○去年伊
 太利國マイラン府、在留ノ公使ヲシテ、同國畫工ユ
 コリニ氏ニ命ジ、歐洲各國ノ帝王、及ビ大統領ノ繪
 像ヲ摸畫セシメ、皇居ニ之ヲ掲ケントス、乃チ天皇
 及ビ皇后宮モ、龍影ヲ贈ラル、是月ユコリニ氏、摸畫
 完成ヲ以テ、彼國ヨリ、遙ニ送致セリ、天皇深ク感賞
 シテ、愛重セラル、○先是魯國駐劄全權公使、坂本氏
 ヨリ、德大寺宮内卿ニ書ヲ寄セ、魯國學科盛大ノ實
 況、及ビ嚮ニ留學セル、万里小路秀麻呂、日夜學事ニ

勉勵將廿二進歩セントス尚多年在留肄業ノ功肝
要タル意ヲ以テ告ク○是月授本公使魯京聖彼得
堡ノ談判ニ於テ我日本ト魯西亞雜居ノ權太ハ遂
ニ魯國ニ割與スルヲニ決議ス

六月七日天皇越中島ニ行幸鐵板砲擊ヲ試驗セラ
ル○八日文部省中督學局ノ官等ヲ改正ス○家
祿奉還資金賜方規則中追加ノ條ヲ廢シ自今割奉
還ヲ停止セシム○社寺祿遞減給與法ヲ以テ去年
九月中布達セシガ社寺上地ノ内草高ナキ除地及
ビ折半高給與ノ方法ヲ新ニ定ム○九日金穀貸借
請人証人辨償ノ規則ヲ定メ本年十月一日ヨリ改

正法ヲ以テ施行ス○十日參議正四位伊地知正治
一等待講ニ任ス○十二日内務省中各局ヲ廢シ第
一庶務第二記錄第三翻譯第四用度第五主計第六
博物館職務往復ノ六局ニ分ツ○檢閱使職務條例
ヲ定メ之ヲ頒布ス○十八日文部省藏版ノ書籍自
今悉ク翻刻ヲ許サル因テ尋常出版ノ例ニ倣ヒ出
願スベキ旨ヲ布達ス○二十三日選卒ヲ以テ等外
吏ニ準スト令ス○比律悉府民會ニ於テ罪惡ヲ行ハ
ント謀ル者現ニ罪惡ヲ遂ケシ者ノ如ク見做シ之
ヲ罰ニ處スルノ法律ヲ制定セント議ス而シテ此
投票ヲ以テ可トスル者七十五人中六人ヲ除ク

ノミ、○二十五日、三潯縣下久留米ニ電信分局ヲ設
 ケ、通信ヲ試ム、○二十七日、大後式ヲ廢シ、神祭式ノ
 如ク、行フベキ旨ヲ、教部省ヨリ布達ス、○西班牙マ
 トリード府ニ於テ、軍艦ビクトリア號ヲ發シ、カル
 リスト黨ノ領守スル所、マトリードハ港ヲ攻メテ
 之ニ勝ツ、○同國政府、官令ヲ出シ、カルリスト與黨
 ヲ追放シ、其所有物ヲ沒收シ、其金額ヲ以テ此黨ノ
 窮苦ニ罹ル村落ヲ救助セリ、○二十八日、工部省中、
 營繕局ヲ置ク、○新夕ニ讒誦律ヲ定メ、嚮キニ布告
 アル、新聞紙條目ヲ廢シ、更ニ條例ヲ頒布ス、○亞米
 利加國郵便交換ノ條約、本年七月一日ヨリ、始テ施

行ス、○二十九日、改正律例第四條、凡上告シテ、破毀
 ヲ得タル罪犯、其懲役ノ年、日數ハ原裁判ノ日ヨリ
 起算シ、獄舍拘置、若クハ便宜監護ノ日數モ、亦懲役
 限内ニ算入スベシト、追加ス、

歐洲近況英國○頃日、英國ト西班牙ニ於テ、ジブラ
 ルタルノ間ニ、一軌ノ隧道ヲ設ケ、歐亞弗ノ三洲ヲ
 連續セシメント欲シ、已ニ初發ノ試驗ヲ作シタル
 ニ、皆悉ク十分ノ成功ヲリト、此隧道ノ位置ハ、イタ
 リヤ及ビアルゼリヤスト、一方ハセントルトクン
 セルノ間ヲ、一直線ニ串貫ス、其長サ四万四千三十
 九尺ナリトゾ、

埃國○病氣又ハ他ノ事故ニ依リ、徵兵ニ應ゼザル者、格外ノ人稅ヲ課スル議アリ、抑徵兵ノ趣意ハ自國防禦ノ入ナレバ、之ニ供スルニ賦金ヲ以テスルヲ至當ト謂ザルヲ得ズ、而シテ毎年之ヲ免カル者、殆ト三十萬ニ至ル、故ニ賦金一人ニ付キ、唯十スラシグヲ課スト、

亞國近況○一月ヨリ六月マデ、天災ニ罹リ、非命ノ死ヲ遂ゲシ者ヲ畧算ス、大洋洲中、フイジー島ニテ、麻疹并ニ流行病ニテ死スル者五萬人、南亞米利加、小亞細亞、メキシコ、ロイヤルチー島ニテ、地震ニ死スル者、二萬七千人、小亞細亞ニテ、饑饉ノ為メ、餓

死二萬人、歐米ニテ洪水ノ為メ、命ヲ失フ者三千二百六人、五十四艘ノ難船ニテ、千三百三人、大風ニテ九百四十四人、火災ニテ七百四十四人、種々ノ破裂ニテ二百七人、雪崩レニテ五十六人、鐵道不慮ノ難ニテ四十三人、總計九萬六千五百七十三人、

地方會議

先是、各地方ノ長官ヲ召集メ、人民ニ代リ、公論與議ヲ以テ、律法ヲ定メ、上下協和、民情暢達ノ路ヲ開クベキ、聖旨ニ基キ、議院憲法ヲ修正シテ頒示シ、尋テ淺草東本願寺ヲ會議院ニ定メ、參議木戸孝允之ガ長官トシ、其議スル御下問ノ條件、道路隄防、橋梁地

方警察、地方會議、貧民救助ノ方法、小學校設立保護ノ五條ニシテ、既ニ民會ヲ開キ、人撰ノ整タル者、或ハ區戸長兩三名ヲ限リ、一管内ヨリ傍聴ヲ許シ、茲ニ六月二十日、開院ノ式ヲ行フ、議長議員書記官等、議院ニ參列、天皇臨幸、乃チ勅諭シテ曰ク、茲ニ地方會議ノ始、朕親臨シテ、汝各官ニ詔ス、朕經國治民ノ易カラザルヲ思ヒ、深ク公論衆議ニ望ム、アリ、今汝各官、地方ノ重任ニ居リ、親ク民情ヲ知ル、誠ニ能ク同心協力シ、事緒多端ナルモ、務メテ是ヲ先ニシ、議論異同アルモ、要スルニ其歸ヲ一ニシ、專ラ衆庶ノ為メニ、公益ヲ圖ラバ、斯會將ニ國家無疆ノ幸福

ヲ開クノ始、タラントス、汝各官、其レ斯ノ旨ヲ體セヨト、議長其勅書ヲ拜受、衆負其盛意ヲ奉戴ス、明日議長議員等、謹テ勅答ス、臣等恭ク聖旨ヲ奉ジ、茲ニ地方官會議ニ列ス、竊ニ惟ルニ、此會議、臣等が未ダ實驗セザル所ナレバ、其如何ナル成功ヲ現シ得ベキヤヲ保ツ、能ハズ、然レモ幸ニ聖意ノ仁慈ニ藉リ、臣等衆議ヲ盡シ、奏上スル所ヲシテ、實際ニ於テ衆庶公益ノ万一ヲ圖ル、アラシメバ、帝ニ聖旨ヲ虚フセザル而已ナラズ、亦會議ノ功績ヲ知ラシムルニ足ルベシ、是臣等が黽勉シテ、冀望スル所ナリ、
○二十二日、議事始、午前十時開庭、午後四時ヲ退席

トス院省廳官員ヲ始メ、平民ノ旁聽ヲ許ス、抑此議
タルヤ、議長先キニ議問、並ニ議案ヲ條舉シ、書記官
之ヲ朗讀シ、畢テ各議員發論問答、其所見ノ異同ヲ
陳述シ、竟ニ論液數脉ニ分レ、或ハ辯駁反對ニ涉ル
ト雖モ、到底其原案ニ因リ、取捨シテ衆議ニ歸ス、此
日發議スルモノ、地方警察ノ議問、並ニ議案五條中、
警察事務中、官民費區別ヲ以テス、議員ノ所見凡ノ
大別シテ三議ト成ル、其一議ハ、原案ノ儘ニテ可ト
シ、其二議ハ、警察入費ハ全ク官庫ヨリ、仕拂スベキ
ヲ主張シ、其三議ハ、警察ノ三分ニテ官庫ヨリ出シ、
其餘ハ地方ノ適宜ニ應ジ、之ヲ民費ニ課スベク、故

ニ豫ジメ三ノ一ト定ム可カラザルヲ主張セリ、議
長其衆議ノ可否ヲ採スルニ、第三議ハ、三十餘名ノ
發論タルヲ以テ、之ニ決議ス、而シテ此日各議員へ
再勅諭アリ、朕去年五月ニ於テ、地方官會議ヲ興サ
シト、既ニ召集ノ期アリ、然ルニ外事方ニ起ルニ會
シ、不得已中途ニ止ム、今年再ヒ前業ヲ舉ケ、議員悉
ク來會ス、朕甚ダ之ヲ嘉ス、事新創ニ係リ、未ダ實踐
ノ則アラザルヲ以テ、汝議員今奏答スル所ヲ踐ミ、
相偕ニ協同經始シテ、以テ創業ノ源ヲ深クシ、此會
議ノ功效ヲ收メ、他日人民幸福ノ流ヲ長セヨ、汝議
員其此ヲ欽ノ、○二十三日、警察官員選卒ハ、該地ノ

人口ニ應ジテ、配布スベク、或ハ配布ハ主務ノ適宜ニ任スベク、或ハ地方ノ景況ニ從ヒ、配布スベク、或ハ人口反別ニ折半スベシト、衆貞發論アリ、今人口ニ應スベキノ説、多數ナルニ似タリ、因リテ議長辨解シテ曰ク、政府ヨリ一縣ノ警察費用トシテ、出ス所ノ金額ハ其縣ノ人口ニ應シテ割渡スベシ、故ニ今遷卒配布ハ、土地ノ廣狹ニ依ルミキカ、人口ノ多寡ニ依ルベキヤノ、條目ヲ舉クレバ、自カラ出額ノ目的モ定ムベキナリ、是ニ於テ人口ニ從ヒ、官吏遷卒ノ配布法ヲ定ムルトニ決議ス、○二十七日、議院ハ天皇臨幸、道路橋梁ノ議ヲ垂問セラル、議案第一

第二條ノ大略ハ、路線ノ起ル處ヲ定メン為メ、全國ノ道路ヲ大別シテ、國道縣道里道ノ三道トナシ、又各道毎ニ之ヲ小分シテ三等トス、其動議スルモノ、或ハ小分ス可ラズ、或ハ小分ヲ前後改正スベシト云フ、而シテ多クハ原案ニ依リ、其文ヲ少シク削正シテ、可ナリト云フ説ニ決ス、○二十八日、二十九日、道路橋梁ノ第三條以下ヲ衆貞審議ス、七月一日、天皇濱離宮ニ行幸、此日會議ノ地方官及ビ議官等ヲ召シ、延邊館ノ中殿ニ臨御ス、議長木戸孝允ハ幹事長幹事ト同ジク謁見ヲ賜ヒ、慰勞ノ勅語アリ、坐定リテ地方ノ事狀ヲ親問セラル、時ニ渡

邊昇神田孝平柴原和楠本正隆岩邨高俊藤邨紫朗
 中島信行、各河部ノ景狀、民間ノ疾苦、物産ノ繁殖、或
 ハ地形ノ險易、水利ノ便益等ヲ、條舉辨陳、忌憚アル
 ナク、三條大臣木戸議長、坐側ニ在リ、彼ヲ問ヒ、是ヲ
 尋ネ、益々衆說ヲ舒長セシメ、一大會議ヲ為ス、議畢
 テ、衆貞ヘ悉ク酒榷盃器ヲ賜ヒ、禁苑ヲ縱觀セシム、
 ○二日、議長公言シテ曰ク、河ノ利害ハ民生ノ休戚
 ニ係ル、最大ナリトス、本邦治水ノ制、未ダ其詳ヲ得
 ズ、去、明治六年八月、大藏省ニ於テ、河港道路修築規
 則ヲ頒布ス、然レモ之ヲ施行スルニ方テ、實際技括
 スル所ナキヲ免レズ、仍テ更ニ施為ノ要領ヲ掲テ、

以テ衆議ニ付ス、隄防法案第一條、河川ニ等級ヲ施
 スハ、去、明治六年八月、大藏省ノ布達ヲ始トス、爾來
 各府縣廳ノ申牒ヲ檢スルニ、幹川ハ一等トシ、派川
 ハ二等トシ、支川ハ三等トスルノ體ニ歸ス、此治理
 ノ方ヲ得タリトスルカ、抑河川ノ狀タルヤ、山壑ノ
 傾斜面ヨリ、雨水ヲ流送シ來リ、平地ニ至リ、合流ス
 ル者ナリ、而シテ地質ニ難易アリ、水勢ニ強弱アリ、
 是ヲ以テ、砂土ノ流落ニ因スル害ハ、源流ヲ良好ニ
 維持シ、河床堆淤ノ害ヲ除カザル可ラズ、流カノ速
 度ニ因スル害ハ、雨水ノ河床ニ歸スルヲ遲滯セシ
 ム、下流衝激ノ因ヲ減セザル可ラズ、河水ノ溜滯ニ

因スル害ハ更ニ流路ヲ適度ニ開テ海ニ放テ、横溢ノ因ヲ減セザル可ラズ、是等ノ諸工、概ネ幹川ニ非ズシテ、支流ニ属ス、然ル時ハ則チ幹派支ノ等別、要スルニ其當ヲ得ズ、今之ヲ廢セザルヲ得ズ、
 第二條、河水ハ降雨ノ量ニ因テ、活動スル者ナレバ、其治理ノ法ニ於ケルモ、毎川差異ナキヲ保ツズ、故ニ各地ノ實際ニ付キ、官民ノ協議ヲ以テ、適應ナル方法ヲ設ケザル可ラズ、然リト雖モ、事實地方ノ力ニ及ビ難キ者ハ、預防ノ工ヲ内務省ニ負荷シ、防禦ノ工ヲ各地方廳ニ任ス、ベシ、預防ノ工ハ、禍害ノ因ヲ減スルモノニシテ、防禦ノ工ハ、水ノ現ニ來ルヲ防ク者

トス、
 第三條、工費ノ出ル處、從來各區其制ヲ殊ニシ、一村内ニ於テモ、亦異同アルニ至ル、是蓋シ封建ノ由テ來ル所久シ、地租ノ改正ニ從テ、漸次之ヲ改正セント欲ス、本邦ノ地勢ヲ見ルニ、流域ノ全國ニ跨ル者アルヲナク、其最大ナル者ト雖モ、僅ニ一局部ヲ占ルニ過キザレバ、其工費ヲ負荷スルモ、亦其局部ノ地方ニ於テ、適宜ノ割合ヲ定ムルヲ當然トス、唯河狀ノ難ナル、民産ノ薄キ、實力ノ堪ヘザル者ハ、臨時國庫ヨリ助給セザルヲ得ザルベシト、書記官ヲシテ、先本議ノ第一條ヲ讀シム、楠本正隆第一動議ニ、幹派支三等ノ名親ハ、此名ニヨリテ、防禦ノ費

用ヲ異ニスルニ非ラズ、舊政府以來ノ名稱ヲ襲ヒシノミ、從來官費ハ給ス可ラズシテ給シ給スベクシテ給セザル者アリ、公平ナラザル殊ニ甚シ、今更ニ實境ノ利害ニ就キ、資給ノ法ヲ設ク、實ニ有名無實ノ舊弊ヲ看破スルノ美舉ナリ、小官異議ナシ、原案ヲ可トス、田中光儀以下、衆議盡ク畢ルヲ俟テ、議長第一勅議ニ從フ者ヲ起立セシム、凡ソ四十四人アリ、因テ此條ハ原案ヲ改メザルニ決ス、次ニ書記官第二條ヲ讀ム、渡邊昇第一勅議ヲ起ス、本文ノ意、天下ノ土木ハ、皆民費ニ屬シ、カノ及バザルハ、官コレヲ助クルト見ヘタリ、然ラバ、天災等ニ非ザル外

ハ、人民ノ費ニ出ツ、果シテ民費トナルニ於テハ、流派ニ在ルモノ、水源ノ工費ヲ辨スルニ至ラン、大阪ノ如キ、水源ヲ河内ニ發シ、或ハ山城ニ發ス、坂民コレガ工費ヲ出サバ、何ヲ以テ堪ンヤ、故ニ小民治河ノ工費ハ、盡ク之ヲ天下ニ課セントス、今天下ノ民口三千五百萬トシ、男女老幼ヲ分チ、又牛馬ヲ五十萬匹ト見做シテ、盡ク課シ、此ヲ以テ工費トセバ、巨功モ為シ得ベク、課法必ズ全備ノ則アル可シト、柴原和之ヲ駁シ、大ニ不可トス、衆議乃チ畢ル、議長ハ、渡邊氏初ニ議シタルヲ以テ、第一勅議トシ、其可否ヲ衆ニ問ハントス、柴原氏ハ、渡邊既ニ工事ヲ費

用ト誤解ス、第一動議トスベカラズト争フ衆員之
 ニ同スル者多シ、因テ柴原氏が發言ヲ第一動議ト
 シ之ニ從フ者ヲ起立セシム、凡四十四人アリ、因テ
 原案ニ異議ナキニ決シ、此日ノ議此ニ止ム、○幹事
 神田孝平小會議ニ、今般新夕ニ警察ノ課ヲ設ラレ
 シガ、邏卒ノ名稱穩當ナラズ、警視廳ニ準ジ、巡查ト
 改稱スベシ、議ヲ可トスル者居多、因テ改稱ラシ
 テ、木戸議長ヲシテ、正院ニ奏上ス、○三日、道路橋
 梁法案答議ニ因テ、小會議アリ、神田孝平會主タリ、
 ○四日、堤防法案第二條中、豫防ニ屬スル者ヨリ、本
 條ノ終リニ至ル審議アリ、安岡良亮、第一動議ヲ為

ス、曰ク、横渠瀘堰溜池放水ノ節度等、皆良法ナル可
 ケレドモ、試験ヲ經ザレバ、實効ヲ知り難シ、故ニ小
 官ハ前會ニ議セシ如ク、一河川ヲ擇ビ、官其費ヲ給
 シ、試ニ此法ヲ施行シ、果シテ利便アルヲ見テ、然ル
 後之ヲ天下ニ行ハント欲ス、楠本正隆是ヲ駁シテ
 曰ク、本條水害ヲ除ク工役ノ略ヲ舉グ、必ズ此ノ如
 ク之ヲ施行スト謂フニ非ズ、實境ニ及ビテハ、許多
 ノ工夫ヲ經テ、然ル後其便利ヲ得ベキナリ、且豫防
 ノ防禦ノ兩目ヲ以テ、其屬スル所ヲ分ツナレバ、其餘
 ハ必ズ論ズルヲ須キズ、山田秀興曰ク、本條除害ノ
 方法ハ、既ニ歐洲ノ名家試験ヲ經テ、其功アル者、今

更ニ之ヲ試ムニ及バズ、其他議者紛紜畢テ、第一動議ニ同意起立スル者ナシ、議長更ニ原案ニ同キ者ヲ起立セシムルニ、盡ク起ニ同意ヲ表ス、因テ第二條ハ原案ニ決ス、書記官第三條ヲ讀ム、楠本正隆第一動議ヲ起シテ曰ク、原案ヲ考ルニ、大意ハ河防ヲ以テ民費トシ、其足ラザル者ヲ、國庫ヨリ給ス、地租改正ニ從テ、漸次ニ之ヲ改正スルトハ、改正ノ事成リタル、地方ヨリシテ、次第ニ河工ニ及ブ者ニシテ、河工租法ト共ニス、費用ヲ賦課スルニ、從來偏頗ノ宿弊ヲ一洗スル者ト謂フベシ、一局部ニ於テ工費割合ヲ定ムルハ、論ナキ能ハズ、蓋河ノ大ナル者ハ、

一二縣ニ跨ル者アリ、是所謂一局部ナレバ、費ヲ二縣ニ課セザルヲ得ザレドモ、協議甚ダ難シ、故ニ豫防ノ費ハ、必ず内務ヨリ二縣ニ賦課ス可キ者トシ、防禦ハ必ず各縣ニ任セテ、工費トモ專力擔當セシム可シ、未ニ臨時助給ノ言アリ、之ヲ除キ去、工費ハ必ず民ヨリ出ト定メテ、足ラザルアレバ、國庫ヨリ助給スト為スベシ、故ニ小官ハ原案ニ基キ、後段ノ語ヲ少ク改正セントス、其他本條ヲ論ズル者甚ダ衆ク、大同小異アリ、議長稍ク衆議ノ盡ルヲ待テ、第一動議ニ同意ノ者ヲ起立セシム、僅ニ六人ノミ、是ニ於テ該議ヲ止ノ、尙未ダ決セザルヲ後會ニ付ス、

○七日堤防法案第三條ハ、既ニ審議スルニ、論辯多
 緒、輒ク決議ニ至ルヲ得ズ、故ニ議長此條ヲ三節ニ
 分節シ、逐次ニ之ヲ審議ス、鍋島幹第一動議ヲ為シ、
 地租改正ノ方法ヲ存セントス、籠手田安定ハ、此法
 案堤防ノ為メニ設クル所ニシテ、地租改正ノ為メ
 ニスル所ニ非ズト、山田秀興ハ、地租改正ト、堤防工
 費改定トハ併行スル事ナレバ、工費ヲ定ルヲ先ト
 シ、地租改正ヲ後ニスベシト、諸説紛紜タリ、神田孝
 平曰ク、鍋島ハ全國地租改正ノ畢ルヲ待ザレバ、公
 平ナラズト云ヘリ、全ク畢ルト畢ラザルトノ前後
 ニ於テ、更ニ公平ヲ得ルト得ザルトノ理ナシ、故ニ

原案ノ儘ヲ可トス、議長ハ衆説ノ畢ルヲ待チ、鍋島
 ノ説ニ同意ノ人ヲ起立セシム、僅ニ八人ノミ、因テ
 第一動議ヲ取消ス、次テ紫原和曰ク、此一節ハ原案
 ヲ可トス、特ニ漸次改正ノ説、大ニ味ヒアリ、假令今
 日ハ地租苛酷ニモセヨ、追々ト物品税ヲ起シ、彼此
 ヲ増減スルニ至ラス、遂ニ百分ノ一ト成ス、ア
 シ、此時ニ當リ、経緯租ノ制モ亦自カヲ備ハルベシ、
 中野渡邊諸人、異詞發論ス、議長ハ衆議ノ畢ルヲ待
 チ、紫原同意ノ人ヲ起立セシム、四十七人アリ、因テ
 決議シテ、第三條ハ原案ヲ可トス、○八日、地方民會
 議門ニ曰ク、近來地方官ノ意ヲ以テ、或バ民會ノ端

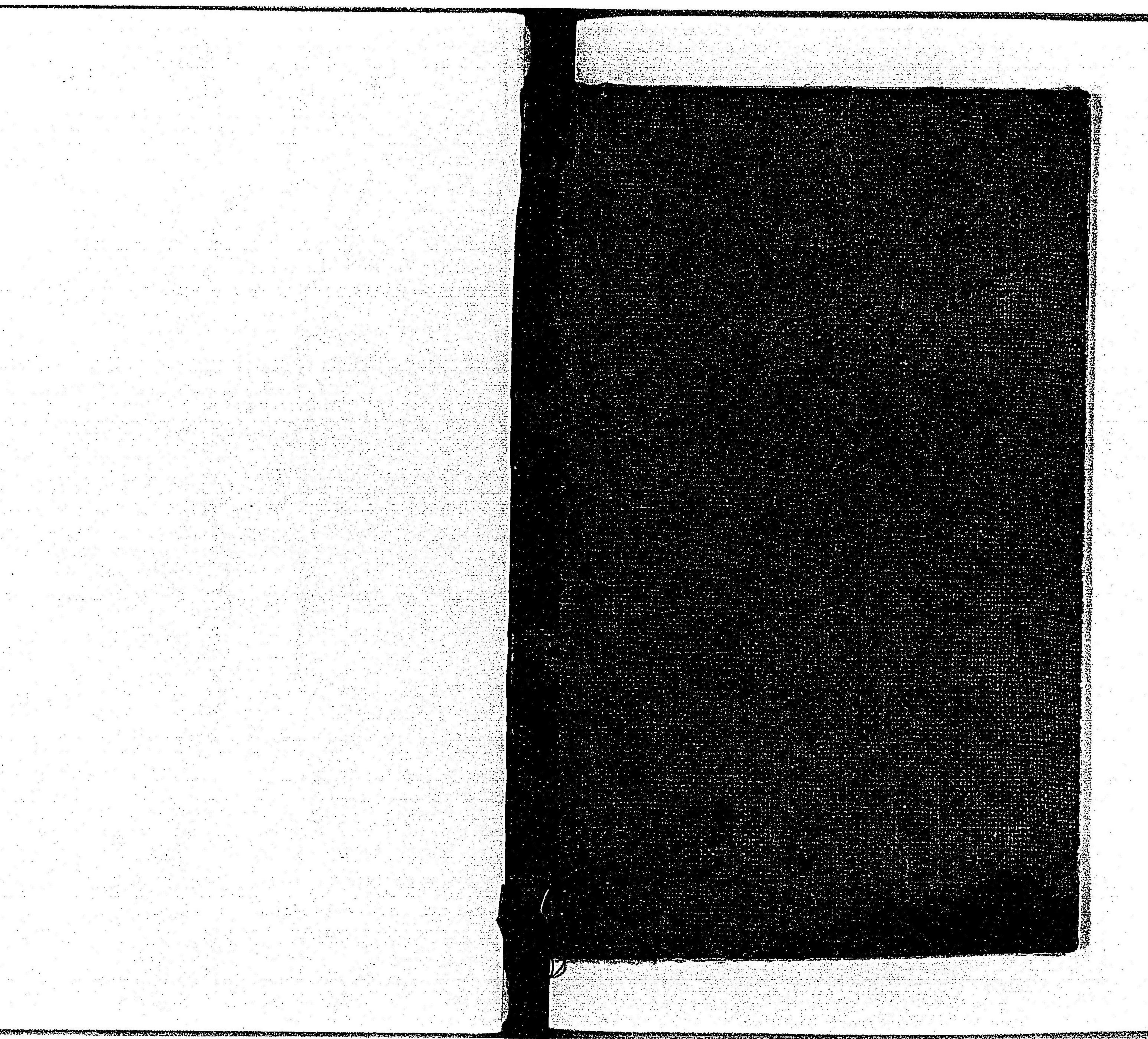
ヲ開ク者アリト雖モ未ダ全國ノ通法アラズ抑維
新以來日タル尚淺ク都鄙ノ景象大ニ相異アリ一
縣内ニ在テモ其通邑ト偏地トハ頗ル同ジカラス
議會ナル者ハ固ヨリ人民ニ起リ而シテ政府隨テ
其法制ヲ設クルモノナリ又些少ノ人負テ以テ成
立スベキ者ニ非ズ且議會ノ起ルニ方テハ小區會
區會府縣會ノ順序アリ故ニ今實際ノ情勢ニ適應
スル所ヲ以テ公平忠實ノ衆議ヲ盡サンコトヲ希望
セラル、ノ聖意ナリ、因テ新タニ議會ノ法ヲ設ケ、
公選ノ議負ヲ用ユルト、姑ラク區戸長ヲ以テ議負
トスル、孰レカ今日人民ノ適度ニ應ジ、實際ニ益ア

ルベキヤ得失如何ヲ問、乃チ衆議畢テ、議長其説ヲ
別ツ、神田氏ハ、自今ノ景況ヲ見ルニ、區戸長ト公選
議負ト混同ニテ設ルヲ適度トス、此議問ニ於テハ、
更ニ可否ヲ答辨セズ、姑ク區戸長ヲ以テ議負トス
ルヲ可トスノ説ハ、柴原氏ノ幾論ニシテ渡邊藤邨
二氏之ニ左袒セリ、公選民會ヲ主トスルハ、中島氏
第一ノ發言ニテ、亦之ヲ争ヒ助ル者多シ、最後ニ大
山氏、地方民會ハ、今日ニ行フヘキヲザル建白ヲ朗
讀ス、然レモ區戸長ヲ用ユルノ説、多數ナルヲ以テ、
之ニ決議ス、○九日正副區戸長ヲ以テ、府縣會ヲ興
ス、議問アリ、既ニ區戸長ヲ以テ、議會ヲ開クト決定

セバ、議會ノ區分ナカル可ラズ、乃チ區會及ビ府縣會ヲ開クベキカ、或ハ區會ニ止リ、或ハ府縣會ニ止ルベキカ、其區別如何、諸員各所見ヲ述ルニ、府縣會區會ヲ並ヒ開キ、施設ノ順序ハ地方ノ適宜ニ任スノ說多數ナルヲ以テ、乃チ決ス。○十日、區長ヲ以テ府縣會ヲ興シ、并ニ戸長ヲ以テ、區會ヲ興スノ法案ヲ書記官ニ讀シメ、議員ハ各此法案ニ基キ、其最モ緊要トスル所ヲ質問答辨ス。○十二日、府縣會法案ノ審議、逐條原案ノ儘ニ之ヲ決ス。○十三日、戸長ヲ以テ區會ヲ起ス法案、及ビ議長諸役員選定ノ議アリ、諸說大同小異ナレバ、之ヲ小會議ニ付テ決セシ

トス。○十四日、十五日、民會ノ議既ニ畢ルヲ以テ、神田渡邊楠本等、小會議ヲナシ、乃チ議案ヲ草上ス。○十七日、開院式ヲ行フ、天皇臨幸、勅諭シテ曰ク、會議終ルヲ告グ、朕深ク汝各官ノ能ク議ヲ致シ、言ヲ竭スヲ嘉トス、奏スル所ノ答議ハ、更ニ元老院ノ議ヲ徵シ、朕親ラ之ヲ裁スベシ、汝各官、自今往テ常職ニ就キ、益々汝ノ力ヲ盡シ、以テ我治ヲ贊ケヨト、議長其勅書ヲ拜受、衆員モ其聖旨ヲ奉戴シテ退ク、此日各地方、次ニ町村會議ヲ開設クルハ、其地ノ適宜ニ任スベキ條ヲ、一般ニ頒布シ、本年會議ノ舉、是ニ至テ乃チ罷ム。

内
外
明
八
史
略
卷
上



特32

560

002191-001-3

特32-560

内外明八史略

近藤 圭造/編

上

M9

ACB-5502

